

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集1 新校舎竣工

～環境共生キャンパスの誕生～

特集2 激動の時代を力強く生き抜いた女性 ハンサムウーマン・新島八重の生き方

●同志社人訪問

株式会社ズノー ジーワン調査部 チーフリサーチャー

喜多 あおいさんに聞く



『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

特集1



新校舎竣工 ～環境共生キャンパスの誕生～

2

特集2



激動の時代を力強く生き抜いた女性 ハンサムウーマン・新島八重の生き方

5

ゼミ探訪 学びの時間

9

神学部 小原 克博 ゼミ

同志社の研究は今

11

モビリティ研究センター 佐藤 健哉 理工学部教授

来年度就職を目指す皆さんへ

13

CAMPUS NEWS

15

大河ドラマ『八重の桜』主演 綾瀬はるかさんが来学／「新島八重」に関する企画展に同志社も協力／青森県風間浦村で国際交流事業を開催／第5回世界学生環境サミットinスイス2012が開催／同志社ハリスフォーラム2012「スマートグリッドー未来の電力網」／同志社大学×京阪電車連携イベント「サークルステーション」N三条開催／第10回全日本学生フォーミュラ大会で総合成績3位に！／今年度の司法試験結果について／本学教員の執筆図書を紹介／文部科学省 平成24年度「グローバル人材育成推進事業」タイプA（全学推進型）に採択／文部科学省 平成24年度「博士課程教育リーディングプログラム」に採択

留学生紹介

19

スルタン・ルレジオウルさん(生命医科学研究科医生命システム専攻に在学)

INTERVIEW ～同志社人訪問～

20

株式会社ズノー

ジーン調査部 チーフリサーチャー 喜多 あおいさんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～

23

・木田 琢仁さん(2000年 法学部卒業)

・河口 しげ子さん(2002年 工学部卒業)

ANNOUNCEMENT

25

MY PURPOSE

27

世界大学射撃選手権に出場した関西の大学射撃界第一人者

～心理学を活かし、目指すはリオデジャネイロ五輪のメダル～ 岩崎 貴文さん〈心理学部4年次生〉

表紙の情景 [今出川キャンパス 良心館]



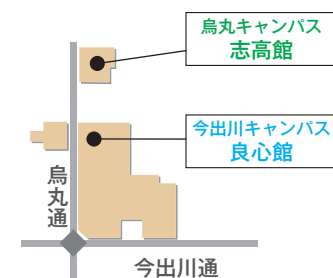
志高館とともに、10月29日に竣工。良心館は延床面積が40,000㎡を超え、様々な施設を集積する。教室は91室あり、約2,550㎡にも及ぶラーニング・コモンズ、ITサポートオフィス、食堂、書籍部などが、より充実した学生生活を支える。今出川駅の北改札口と直結しており、雨の日も傘を差さずに館内に入れる。

1階ルーセントプラザでは、この場所から発掘された埋蔵文化財を展示。ロビーの装飾ガラス意匠と4階外観に設えた面格子には京唐紙の老舗「唐長」の紋様を用いるなど、空間・デザイン面でも趣向を凝らしている。

今出川キャンパス 良心館



新校舎竣工 （環境共生キャンパスの誕生）



地球規模での環境問題が大きな課題となっている中、本学ではキャンパス再編計画に伴うキャンパス整備にあり、よりよい環境品質・性能の建築物をできる限り少ない環境負荷で建設・運営することを目指した。テーマは「人にやさしく・地球にやさしい」サステイナブル（持続可能な）キャンパスの実現。「良心館」「志高館」ともに、環境負荷の低減はもちろんのこと、その環境配慮技術を可視化することにより、環境マインドの教育・啓発効果をハード面から強化した。

「良心館」で取り組んだのは、自然エネルギーの活用、熱負荷低減による快適な居住空間の実現とランニングコストの縮減である。具体的には、省エネルギー設備の採用、地熱や雨水・井戸水などの積極活用、自然採光・自然換気の促進。省エネルギー化やCO₂排出量の削減を図っている。

一方「志高館」では周辺環境への配慮を重視。地域の原風景である烏丸通に面した桜並木と相国寺の杉林との連携を図り、サンクンガーデンや外構の緑化に努めた。太陽光発電や屋上緑化など自然エネルギーの利用、LED照明やセンサー制御など高効率機器の採用に加え、構造強度の確保や自由度の高い設計など建物の長寿命化を実現した。



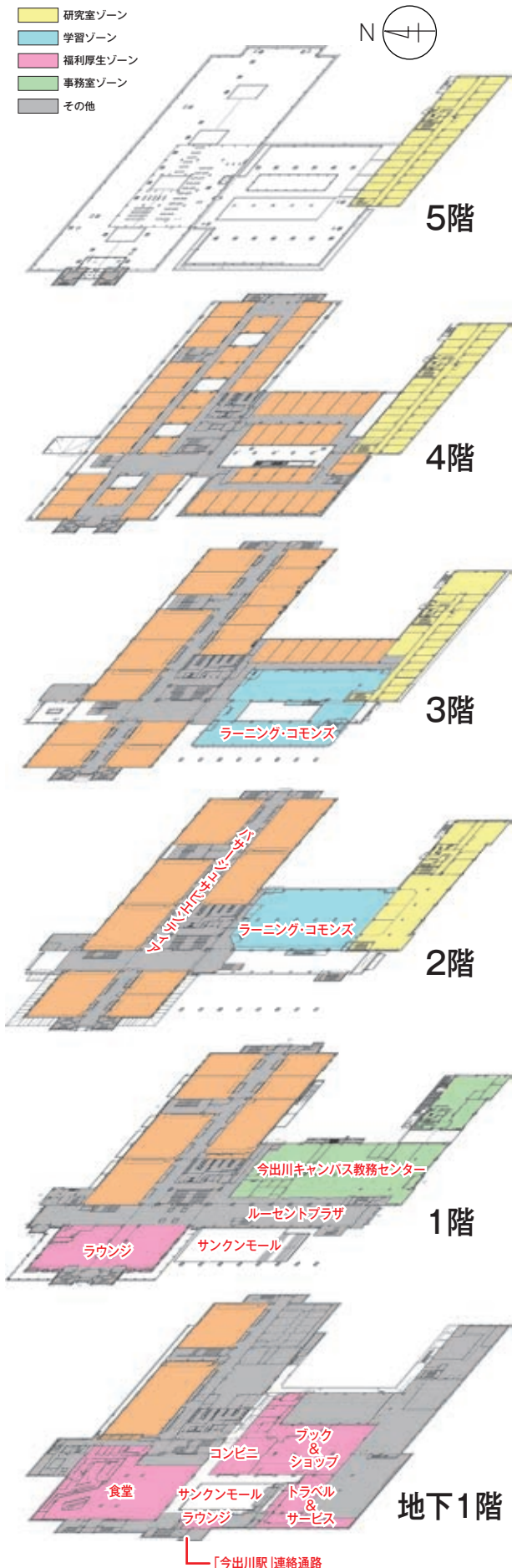
烏丸キャンパス 志高館

今出川キャンパス 良心館



同志社の創立者・新島襄は「一国の良心とも謂ふべき人々を養成せん」として同志社大学の設立に奔走した。本学の教育の新たな出発点を象徴する校舎には、同志社の建学の精神である「良心」の言葉を用いて命名。

- 教室ゾーン
- 研究室ゾーン
- 学習ゾーン
- 福利厚生ゾーン
- 事務室ゾーン
- その他



約700席、約300席、約230席と、規模の異なる特別教室が計3室ある。内装材にはすべて天然木を採用し、落ち着いた雰囲気漂わせる。一般授業での利用のほか、各種のシンポジウムや会議にも対応可能な設備を備えており、特に地下1階の大教室には常設の同時通訳用ブースが4室設置され、国際会議の会場としても活用する。



特別教室

良心館の建物中央を南北に貫く吹き抜けの大空間。「地の塩、世の光」のように「二国の良心とも謂うべき人物」になってほしいと願いを込めて、「光の広場」とつけた。文法・経済の各学部・研究科事務室、教務課、免許資格課程センター事務室が1フロアに入っている。「今出川キャンパス教務センター」に面している。



ルーセントプラザ

ルーセントプラザ吹き抜けに面した2・3階に位置し、両フロアを合わせた床面積は約2,550㎡。日本最大級の規模である。2階は「交流と相互啓発の空間」として、シーンごとに区画を変更できるプレゼンテーションコート(約180㎡)、国際交流スペース、ダイナー形式コーナーなどを設けている。3階は「アカデミックスキルの育成空間」として、学習のサポートカウンターのほか、グループ学習コーナー、マルチメディアラウンジなどを設置している。運用開始は来年4月で、学生自らが主体的に授業外学習を行う場として活用される。



ラーニング・commons

特別教室を除いて、大教室(約400席)9室、中教室(約200席)11室、小教室(約60席)14室、ゼミ室(25~40席)45室、情報教室5室の教室を配置。各教室の出入り口はすべて引き戸としており、規模の大きな教室には車いす用の座席を確保。バリアフリーにも対応している。情報教室はスライドディスプレイを利用して、最大9室に分割可能だ。



一般教室

烏丸キャンパス

志高館



館名は、新島襄が記した『同志社大学設立ヲ要スル主意』の文中の言葉を用いて命名。新島の高い「志」によって誕生した同志社の門をくぐる学生が、自ら抱く「志」をより高めてほしいという願いを込めた。

志高館で、最も人が集まる中心空間。国際主義教育を体現する発信と交流の場として、様々な使い方を想定している。通常は、ラウンジやカフェと連続して使える学生たちの憩いと語らいの場。大階段をステージや客席に、パフォーマンス空間とすることも可能。ラーニングスタジオ内でのイベントのライブ発信をモニターすることもできる。京町屋における中庭と同様、光や風などを屋内に取り込み、地下の教室にも光が入るように工夫している。



サンクンガーデンの東側正面にひととき目立つガラスシンタターの地階部。日常的には、グループワークやその成果のプレゼンテーション、海外テレビ放送等を用いたケーススタディなどの演習授業に使う。ゲストを招いて、収録、ライブ配信しながら行うトークショーや対談の会場としても利用できる。また、学生たちが動画コンテンツを作成したり、ラジオ放送を流したりすることも可能である。



廊下・階段は休憩時間には集中する大人数の移動に十分な幅を確保。中廊下部には、光ダクトで屋上から自然光を取り入れて、自然がもつ快適性を積極的に利用している。床は歩行感の良いカーペット仕上げ。省エネルギー化に対応して、高効率のセンサー付LED照明器具を採用している。



2階の北側に教員研究室、南側に大学院生の共同研究室を配置。北と南を往来するため、サンクンガーデン上空にブリッジを架けた。窓際にはハイカウンターと腰かけ用のバーを設け、サンクンガーデンを眺めながら歓談できる空間とした。



サンクンガーデン

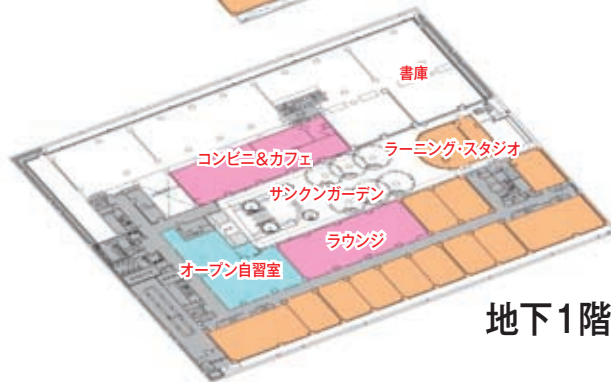
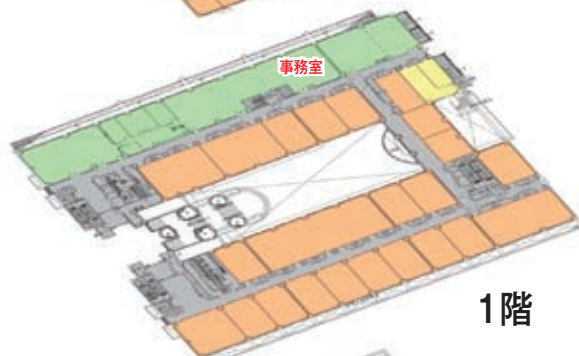
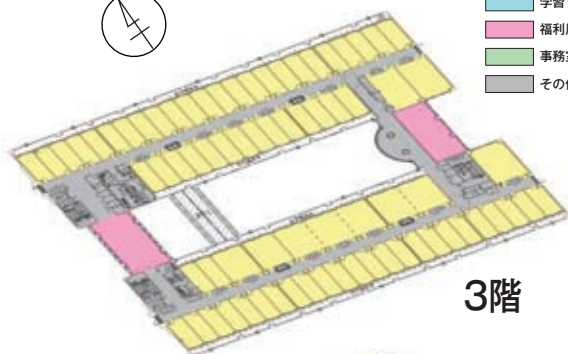
ラーニング・スタジオ

廊下・階段

ラーニング・ブリッジ



- 教室ゾーン
- 研究室ゾーン
- 学習ゾーン
- 福利厚生ゾーン
- 事務室ゾーン
- その他



学生同士でコミュニケーションがとりやすいよう学生ラウンジなど交流の場を多数設置。



本学の国際拠点となることから、各国の留学生に対応した設備として、トイレには礼拝前に手足を清められる場を設置。

激動の時代を力強く生き抜いた女性

ハンサムウーマン・新島八重の生き方

2013年の大河ドラマに、会津若松市出身で同志社の創立者である新島襄を支えた妻・八重を主人公とする「八重の桜」が決定。東北・福島に根付く不屈の精神と、自らの強固な信念で人生を切り拓いていった八重の生き方が、復興を目指す被災地の方々にとって少しでも希望の光となってほしい。●本学もその企画意図に賛同し、ドラマ制作に全面協力しています。

義のために生きた
女の生涯



結婚して間もない頃の新島襄・八重夫妻

新島八重略年表

西暦	出来事
1845年	11月3日、現在の会津若松市で父・山本権八、母・佐久の間に誕生
1865年頃	但馬出石藩出身で藩校日新館教授だった川崎尚之助と結婚。
1868年	1月に戊辰戦争勃発。 8月、戦死した弟・三郎の服を着て鶴ヶ城に籠城。落城の際、白壁に「明日の夜は何国の誰かながむらん、なれし御城に残す月かげ」と刻む。
1871年	母、姪とともに兄・覚馬を頼って京都へ。
1872年	公立女学校のさきがけである女紅場(現:京都府立鴨沂高等学校)で教師となる。
1875年	10月15日に新島襄と婚約。
1876年	J・D・デイヴィスから洗礼を受け、新島襄とプロテスタント式の結婚式を挙げる。
1890年	1月、夫・新島襄死去。 4月、日本赤十字社社員となる。
1896年	日清戦争での功勞に対し、勲七等宝冠章が授与される。
1932年	6月14日、急性胆のう炎のため永眠。 17日、同志社栄光館にて同志社社葬。

同志社キャラクター「八重さん」



「新島夫妻は、妻が夫を「襄」と呼び、夫は妻のことを「八重さん」と呼んでいました。このキャラクターも創立者・新島襄に倣って、呼称を「八重さん」としました。

1845(弘化2)年11月、八重は会津藩の山本権八と佐久夫妻の三女として誕生しました。砲術師範の家柄とあってか、幼い頃から男勝りの気性だった八重は、戊辰戦争で会津が戦場になると、断髪男装し、会津鶴ヶ城に籠城しました。自ら最新のスペンサー銃を手に、最初の夫・川崎尚之助(戊辰戦争前に結婚したが、開城後に離別)とともに奮戦しましたが、無念の敗北。弟・三郎と父・権八を戦で失います。

会津藩の敗戦から3年後の1871(明治4)年、26歳の八重は、京都府顧問となっていた兄・山本覚馬を頼って京都の地を踏みます。そこでの生活の中で、国禁を犯して渡米、10年におよぶ海外生活を終えて帰国し、キリスト教主義の学校創設に奔走していた新島襄と出会います。2人は1875(明治8)年10月に婚約。襄がアメリカの養母、A・D・ハーディー夫人への手紙で「He is a person who does handsome」と、八重の見た目ではなく人間性の美しさを書き送ったのは、この頃のことです。

翌年1月3日に、京都初の日本人同士によるプロテスタント式の結婚式を挙げた2人。欧米流のレディーファーストが身につけていた夫、男勝りの性格の妻、その関係をどんなに世間が罵ろうと、八重はまったく動じませんでした。大学を設置するために東奔西走する襄を支え続けた八重ですが、襄は志半ばで倒れ、1890(明治23)年1月に八重の腕に抱かれ「グッドバイ、また会わん」と言い残して亡くなります。

夫の死後、日本赤十字社の正社員となった八重は、社会奉仕事業に献身する道を進みます。篤志看護婦として日清戦争・日露戦争に従軍。この功績により、民間女性として初めて政府から叙勲を受け、日本赤十字の篤志看護婦らの地位向上に努めました。また裏千家の指導者となり、茶名「新島宗竹」として茶道の普及に貢献しました。

そして1932(昭和7)年6月、寺町丸太町上ルの自邸(現:新島旧邸)で86年の生涯を閉じます。江戸から明治・大正・昭和と移り変わった激動の時代を全力で生き抜いた八重。そのハンサムな生き方は、きつと現代の日本を、日本人を元気にしてくれるに違いありません。

特別
座談会

「新島八重」に寄せる想い

新島八重を創立者・新島襄の妻であること以上に知っている人は、学内でもそう多くない。ドラマ化されることを機会に、八重と関わりを持った学生の目を通して、改めてその人間像や生き方にふれてみたい。新島襄と八重が暮らした新島旧邸で、それぞれの立場から語ってもらった。



清野 結衣さん
【法学部法律学科2年次生】

所属する漫画研究会でマンガ「八重物語」を制作。共同作業の中、自身は伊東梯次郎のキャラクターデザイン原案のほか、全編を通して登場人物の衣装の色付けを担当。



小島 奈緒さん
【文学部文化史学科3年次生】

福島県会津若松市出身。地元で今も会津の人材育成の指針とされている「仕の掟」(子弟教育7カ条)を小学校で学ぶ。卒業後は教員免許を取り会津で教職に就きたいという。



吉川 雄大さん
【社会学部メディア学科3年次生】

昨年10月、ゼミの授業の一環として京都新聞の企画「@キャンパス」で新島八重について調査し、記事を執筆。ドラマ「八重の桜」の制作統括・内藤慎氏にもインタビューした。



佐伯 順子 教授
【同志社大学大学院
社会学研究科メディア学専攻教授】

1984年学習院大学文学部史学科卒業、1989年東京大学大学院総合文化研究科比較文学比較文化専攻博士課程単位取得満期退学。学術博士。メディアや文学における女性の描かれ方をテーマに、明治から現代への流れを研究する。



1878年に竣工した襄と八重の私邸。京都市の有形文化財に指定されている。

困難な状況でも
前向きに生きた人

佐伯 ● 大河ドラマで描かれることになり、注目を集めている新島八重ですが、同志社大学でも創立者・新島襄の妻という以外、これまでは多くの人に知られる存在ではありませんでした。清野さんは八重さんを主人公に漫画を描かれたということですが、どういう印象を持たれましたか。

清野 ● 私が八重さんのことを詳しく知ったのは、今年2月、大学から漫画研究会に漫画制作のお話をいただき、その時に様々

な資料を見たのが初めてです。八重さんは幾度となく苦難に遭いますが、決して挫折しない人でした。それどころか後年になっても後ろ向きなことは言わず、まるで楽しんでいられるかのように自身の人生を振り返っています。その時の「戦とは面白いのですね」という言葉が、私たちが漫画を制作するにあたって決めたテーマです。どんなに困難な状況に置かれても前向きに生きる、そんな八重さんの生き方に、読んだ人たちが勇気づけられるものにしようというのが一番の目標でした。

佐伯 ● 制作はどのように進めていかれたのですか。

清野 ● 10人で1つの漫画を描くというのは全員が初めてのことでしたから、とても苦労しました。手分けして八重さん関連の資料を読み込み、会長と東北出身の部員の2人が実際に会津にも取材に行きました。まずどんなストーリーにするかを決め、人物デザインやそれぞれの役割分担を決定。人物ごとに作画する人も変えています。特に八重さんは会津編と京都編で描いている人が違うので、違和感がないように絵柄を調整するのが大変でした。

佐伯 ● 皆さんが力を合わせたということですが素晴らしいと思います。だからこそあれほどクオリティの高い作品が完成したのですね。小島さんは八重さんと同じ会津若松のご出身。小さい頃から八重さんのことはご存じだったのでしょいか。

新島八重は 福島県人の誇り

小島 ● 私の実家は会津若松城（鶴ヶ城）の近くで、小さい頃はよく遊びに行きました。毎年お花見もしました。また八重さんの生家は、実家から歩いて10分ほどのところにあります。小学生の頃から会津の歴史にふれる時間が多く、八重さんについても郷土学習の中で知りました。住み慣れた会津を出て京都に来た八重さん。私も18年間一度も離れたことのなかった会津から、一念発起して京都に来ました。そんな共通点もあって、会

津にいた時よりも、同志社大学に通い始めてから親近感が湧いてきました。言葉や文化の違いなど、私が会津から京都に来て感じたことは、八重さんも同じだったのかもしれない。

佐伯 ● 同志社で学んでいくにあたっての心の支え、共感のようなものを八重さんに感じられたということなのでしょうね。会津若松といえば、東日本大震災で大変な思いをされたのではないですか。
小島 ● 震災の時、私は京都にいて、家族や友人と連絡が取れたのは夜になってから



でした。会津は内陸なので津波の心配はなかったのですが、原発事故の影響が心配でした。地震の後、ようやく実家に帰れたのは8月になってからです。今、会津の町の様子を見ても、一見すると普通の生活ができています。ただ、帰省の度にテレビや新聞で各地点の放射線測定値が発表されるのを見ると、状況の深刻さを感じます。最近になってようやく修学旅行生や観光客の方が、また会津を訪れるようになったと聞いています。今『フクシマ』から連想されるのは、地震や原発事故といった暗い話題ばかり。もちろん震災のことを忘れてはいけませんが、大河ドラマ「八重の桜」をきっかけに本当の福島、会津の良さを知っ

てもらえたらと思います。

吉川 ● 僕の母も福島県生まれなので、「このような形で1年間、八重さんの物語を見ることができるのは、福島の人間にとって誇りだ」と話していました。福島原発事故と戊辰戦争での会津藩の悲劇は重なるものがある。そうで「福島県人の内に秘めた底力があれば、絶対この困難にも立ち向かえる」と常々口にしていました。

進取の精神と自分の信念を貫く姿勢

佐伯 ● 吉川さんは来年の大河ドラマに関して、NHKの制作統括にインタビューするなど、様々な調査をされたのですね。その結果、新島八重という人物についてどのように感じられましたか。

吉川 ● 調査を通して感じたのは、八重さんの持つ「進取の精神」です。周りがしていなくても、たとえ自分1人だとしても、やると決めたことは進んでやる。1人だけ違うことをするのは難しく、とても勇気のいることです。集団で行動する傾向にある日本では

は多くの人が主流派に拠ってしまいがちですが、八重さんはマイナーでも自分が信じる道を選びました。少数派になるのを厭わない精神はなかなか持てるものではないと思います。

佐伯 ● 私は八重さんの生き様は現代社会にも通じるものがあると思っています。清野さんは漫画を描きながら今の女性の参考になると感じたことはありますか。

清野 ● 私も吉川さんと同じように、八重さんは周囲の目がどうであれ、自分のしたいことを貫き通した女性だと感じました。現代は他人から見ると違和感を持たれたいかという思いが先行して、自分のしたいことをできずにいる人が多いのではないかと思います。漫画にも描いたのですが、徳富猪一郎（後の蘇峰）に「鶴（ぬえ）のような女」と非難されても、八重さんは着物に帽子と靴を合わせるスタイルを変えませんでした。他人にどう思われようと気にせず自分の信念を貫くということは、女性に限らず、日本人にとって必要なことなのではないかと思っています。



玄関右の洋間。当時の椅子やテーブルがそのまま置かれている。教室、職員室、会議室など多目的に使われていた。





台所は土間形式ではなく、床板の上に流しを置いている。井戸が室内にあるのも特徴の1つ。

同志社精神に 息づいている 新島八重の思い

佐伯●新島八重という人物を知ったことで、八重さんの生き方と現在の同志社大学、ご自身の生き方でつながりを感じることはありますか。

吉川●八重さんは新島襄と結婚する前の日にキリスト教の洗礼を受けました。それは決して押し付けられてのことではなかったはず。自分の中の根本にある性質は、押し付けられて変えられるものではありません。キリスト教を押し付けるのではなく、その精神を教育に生かすというのが同志社大学の教育理念。それが自由な校風にもつながっているのではないかと思います。

小島●八重さんは流れてくるものをそのまま受け入れるのではなく、主体はいつも自分という印象があります。困難に遭遇したり何かに悩んだりした時、立ち返るものは小さい時からの親の教えや、私なら会津の歴史から学んだこ

とだと思っています。これから人生の節目で悩んだ時には、きっと八重さんの生き方が支えになってくれると思います。

清野●大学に入るまでは冒険するのが怖くて安全な道を選んで歩んできませんでした。八重さんが女性らしくないと批判されても自分の道を貫き通したのを知り、自分の人生のだから自分の信念を曲げずに、時には冒険をすることも必要だと思うようになりました。八重さんのように力強く柔軟でユーモアもあり、困難すら乗り越めるくらい勢いで何事にも立ち向かっていけるような女性になりたいです。

佐伯●明治時代は四民平等で進歩した時代だと思われがちですが、実は男尊女卑的な考え方も強かったのです。近代化が進む中で、女性の本分は家庭にいて家事や育児をすることだ、陰で夫を支えることが女性の役割だという考え方が広まった時代でもありました。女性



八重が愛用していたオルガン。足元のペダルを交互に踏み込むことで音が出る。

はつつましかでおとなしいのが日本古来の伝統であるように言われますが、決してそうではありません。そんな時代に、マイナーな存在として非難されてしまいかねない女性の向上心や自己主張を失わずに生き続けたのが新島八重なのです。同志社大学で学ぶ皆さんには、新島襄の精神だけではなく、そうした新島八重の精神も学んで卒業していただきたい。新島襄と八重の夫婦のあり方、篤志看護婦として活躍した人へのやさしさ、兄を介助したケアの心、豊かな人間性、それらすべてが同志社精神に息づいているということ。を自覚し、卒業後も社会の中で生かしていただきたく思います。皆さん、本日はありがとうございました。

ドラマ「八重の桜」を より楽しむために

「八重の桜」の支援協力プロジェクトの1つとして制作された「入門編」の冊子。マンガで読む「八重物語」も収録。八重のミニヒストリー、新島襄・八重夫妻ゆかりの京都案内など、これがあればドラマがより楽しめます。学内で配布していますので、ぜひ手にとってみてください。



同志社大学・同志社女子大学



神学部

小原克博ゼミ

生涯の基礎力となる 「プレゼンテーション能力」と「文章力」を養う

同志社創立以来の神学研究機関である神学部。学際的・総合的な見地から、建学の精神でもあるキリスト教研究を柱に、現在はイス

ラム、ユダヤ教にも研究の対象を拡大。牧師、教師はもとより、企業人から芸術家まで、輩出した人材は驚くほど幅広い。特徴は1学年が70〜80人と少人数で、学生同士の親密度が高く、教員と学生の距離が近いことだ。また特定の宗派の牧師を養成するだけの学部ではないため、クリスチャンである必要はない。

「現代社会が抱えている問題を幅広く理解する中で、学生それぞれの関心を明確にし、

自ら設定したテーマについて深く掘り下げていくことが目標です」

小原克博教授がこう語るように、ゼミ全体のテーマは「組織神学」(キリスト教神学の過去・現在・未来)だが、ゼミ生1人ひとりが取り上げ

ているのは、文学、動物、中国、ワイン…、キリスト教や「宗教」という共通項があるとはいえ、関連する題材は千差万別だ。この日発表



表した3人も、斎藤佳子さんが『沈黙』における遠藤周作のキリスト教理解、小澤時乃さんが「動物に対する人間中心主義」、中国からの留学生、徐珊珊さんは「差別問題に対する教会への懸念」として、中国のキリスト教教会が抱える差別問題や政府の教会弾圧などについて報告した。

「このゼミは卒業論文を書くことを目的にしている、3人の発表はそれぞれの卒業論文の結論に近いところまで来ています。ゼミを通して学生に身につけてほしいのは、まず文章力。そしてプレゼンテーション能力です。一般社会で通用する表現力として、その2つの力を向上させることが基本方針です。とにかく力をつけるには、自分の好きなことを存分にやるということが大事ですから、こちらから規制することはありません」と、小原教授は言う。

小原ゼミのメンバーは17人。その中には4年次生だけでなく3年次生も含まれる。3年次で卒業制作に向けての準備を始め、先輩がどのように進めていくのかを間近に見ながら4年次に上がっていく。4年次生の就職活動の様子や就活と勉強を両立させる姿を3年次で見る意義も大きい。2学年がともに学ぶゼミは、学生数が少ない神学部の特徴だ。

さらに神学部の場合は、2年次の終わるか3年次で全員をどこかのゼミに振り分ける仕組みがない。学年に関係なく、どのゼミでも自由に取ることができ。これも、自由度を最大限に保つという神学部らしい伝統からきている。

を取らなかつたり、真剣に参加しなかつたりする場合、自分のスキルの向上につながるというデメリットもあります。その点、このゼミは私の指導の下に卒業論文を書くという意思を明確にした人に限定して登録を許可しています。そういう意味では、神学部の中でも一番門戸の狭いゼミかもしれませぬ」

小原教授がそう言うのと、全員が大きく頷きながら笑った。学生たちに、まず神学部を選んだ理由を聞いた。

「関西学院大学にも神学部はありますが、キリスト教しか勉強できない。同志社大学の神学部はキリスト教に限らず広域に学べますから」と言う中西啓太さんと同様、植月裕也さんも既成の枠の中に収まらない学びの自由さを理由に挙げた。「神学部は1年次に必修科目が1つだけなのです。その他はまったくの自由で、これが学びたいという



小原克博【神学部教授】





ものを集めれば、自分だけの学部をつくりてしまおうくらい」と、横田麗さんも自由に魅惑を感じたと話す。

神学部は宗教を通して世界ともつながる。「外国の人たちは日本人と違って信仰心を持っているのが当たり前。外国人と関わることに興味があるので、宗教を学ぶことが大事だと考えた」と言うのは日高由梨さんだ。

さらに神学部では、2000年以降、イスラームとユダヤ教も学べるように教育プログラムが拡大し、アラビア語に関連する科目も増加。外国語大学並みに語学のカリキュラムが充実した。「キリスト教の社会福祉に関心を持って入ったが、今はイスラム思想が専門になっている」という山本直輝さんは、

1年間トルコのイスタンブールに留学した経験を持ち、英語、アラビア語とトルコ語が話せる。

今年6月、小原教授がセンター長を務める一神教学際研究センターが「アフガニスタンにおける和解と平和構築」をテーマに公開シンポジウムを開催した。その際、山本さんはアシスタントとして活躍。「タリバンの方たちも来ていて、アラビア語で話をしました。彼らと日本庭園で団子を食べとお茶を飲んだのですが、おそらく神



の存在や、国を超えて同じ神様を信仰しているという事実を実際に見たり感じたりしたことで、偏見やバイアスが取れて価値観が広がりました」と語っている。

インタビューに答えてくれたのは全員4年次生。進路も気になる。

横田さんは航空会社のグランドスタッフ。竹村絵美さんは言語聴覚士を目指し、大学卒業後、さらに2年間医療系の学校へ通うという。靴の部品メーカーに内定しているという小澤さんは、「中小企業なのですが、倫理観、価値観に共感が持てる会社だったので」と、決めた理由を話す。

神学部の1・2年次生、これから神学部に入ろうと考えている高校生に、素材メーカーへの入社が決まっている植月さんの言葉は頼もしい。

「神学部というだけで関心を持ってもらえる。ゼミで鍛えたプレゼン能力を生かし、自分が何をやってきたのかをしっかりと伝えられれば、神学部卒は大きな武器になります」

学部に入っていなければ経験できなかったことと言う。神学部に入って得たことについては、田村奈々さんも「信仰を支えられている人

就職について、最後に小原教授が語る。

「特にこの業界に強いというものはなく、一般的な文系学部と同じです。学生には社会に出て行く上で必要な基礎力を、大学時代にきちんと身につけてほしい。社会に出た後のこと



をイメージして、会社の中で役に立つことだけではなく、一生涯使える力を養うことが大事なのです。人前で話す力、文章を書く力というのはどの会社に行っても、場合によっては会社を辞めた後でも使えます。それを今身につけるか、それともいい加減なままで過ごすかで、人の一生は大きく変わってくると思います」

パーソナルモビリティによる 安全・快適な交通社会の実現を目指す

モビリティ研究センター

ヒトの目が届かない死角にあるモノを検知し、その動きを予測して車に伝え、適切にコントロールしてアクシデントを未然に防ぐ……。このような高い安全性が確保された交通環境の実現は、遠い将来のことではない。2011年4月に誕生した「同志社大学モビリティ研究センター」は、安全かつ快適なナビゲーションシステム(センシング・制御)や情報通信の技術基盤を確立し、新しい交通サービスを社会に普及させることを目指して設立された。理工系のみならず社会、政策、経済をも含んだ学際的研究拠点である同センターの活動とその社会的役割などについて、センター長の佐藤健哉理工学研究科情報工学専攻教授に聞いた。



佐藤 健哉 [理工学部教授]

高齢化社会に突入している先進諸国はもちろん、自動車交通の発達に伴い交通障害の増大や環境の悪化が進む発展途上国においても、移動手段(モビリティ)としての自動車は、新たな認識や考え方(パラダイム)への転換が求められる時代になっています。人がいかに効率良く移動するかを考えれば、その手段は人それぞれの特性に応じて、よりパーソナルにカスタマイズされていきます。そこでは複数の小型の移動機器(パーソナルモビリティ)が相互に連携し、情報交換を行いながら、外部環境からの情報の欠如やモビリティそのもののトラブルに対して、安全で的確に対応する高い信頼性を持った技術基盤がなくてはなりません。その重要なバックボーンとなるのが、近年急速に進展している情報通信に関する様々な技術革新です。同志社大学モビリティ研究センターは、安心して利用できるパーソナルモビリティの技術基盤を確立し、社会への普及を目指すことを目的に、2011年4月、学内で関係する分野の研究を進めている研究者を結集し研究開発を行っていく拠点として誕生しました。

モビリティのパラダイムシフトを牽引するのがITS(インテリジェントトランスポートシステムズ)、知的交通システムあるいは高度道路交通システムといわれているものです。その分野において、私たちが研究テーマとしているのは、パーソナルモビリティのための高信頼性センシング情報処理プラットフォームとサービスの構築で



す。例えば、富士重工の「アイサイト」やグーグルの自動運転では、車両ごとに独自で前方や周りの車両や障害物を検知し、危険と認識すれば自動的にブレーキやステアリングの操作で衝突を回避するシステムが開発されています。一方、私たちはそういったカメラやレーザーレーダー、ミリ波レーダー

た情報を複数の車両間で交換共有し、自分では見えないものを見えるようにすることで、自動車の安全な走行をより高度に確保しようと研究をしているのです。

センターにおける研究体制は、大きく3つのグループに分かれています。1つはパーソナルモビリティの安全・快適ナビ



ゲーシジョン基盤の構築を図る「センシング・制御」。自車や周辺のセンサを連携させて状況を広範囲・高精度に「認知」して、その潜在的危険度をコンピュータで「判断」し、その結果にしたがってモビリティを適切に「操作」する。この一連のシステムによってモビリティの安全走行を可能にしようというものです。安全・快適なナビゲーシジョンを実現するには、各車両のセンサデータ、物体検出データ、走行データを共有するためのセンサ情報通信プラットフォームの構築も欠かせません。この研究を行っているのが、2つ目の「情報通信」のグループです。さらにこ

れらの研究の成果を社会学の一つの観点であるエスノグラフィカルアプローチ(社会や集団の行動様式を調査し、本質的な要因を定性的に探り出す手法)を用いて、ITSの新しいサービスとして構築し、「社会普及・標準化」を目指すのが3つ目のグループ。私たちのセンターでは新技術を実用化し社会に普及させるまでを検討しています。経済学的観点から新技術が普及した際の経済効果を予測し、普及のための政策を考えることもこのグループの役割です。

研究メンバーの顔ぶれは、理工学部、生命医科学部、文化情報学部、政策学部、さらに経済学部の研究者を含めて多岐にわたっています。新技術の社会普及のこ

とまでを考えれば、社会学的、経済学的側面からのアプローチもきわめて重要となります。

当センターは今年4月、名古屋大学組織みシステム研究センターと共同で、複数の車両から得られるデータを統合して管理するシステム構成(アーキテクチャ)を研究開発するためのコンソーシアムを立ち上げました。ここにはトヨタ自動車をはじめとする自動車関連メーカーや通信、IT分野の企業のほか、国土交通省、経済産業省の部署も加わり、将来の産業界で実際に利用できるようなITS協調システムの技術開発に取り組んでいます。現在はまだコンピュータによるシミュレーションや模型レベルの実験を行っている段階ですが、3年後にはマイクロEVなどに実装して市街地での実車実験を行う予定です。アラブ首長国連邦

では先端技術を駆使したスマートシティの研究実験が行われていますが、現実的にそのような効率的都市を日本で新たに建設するのは困難。既存の町、特に私たちは人と車が渾然一体となった京都市内で実験することにこそ意味があると考えています。

情報ネットワークの構成とデータをやり取りする仕組み、すなわちネットワークアーキテクチャの国際標準化を実現することも目標の一つです。国際的に標準化された規格がなければ、利用者を世界的に広げていくことが難しくなります。特に日本は技術的には進んでいるのに、標準化戦略がそれに追いついていません。アメリカやヨーロッパでの標準化の動きが活発ですが、日本の技術を積極的に世界に伝えていきたいと思っています。



障害物の形や動きを認識し、それを避けるロボカーの走行実験が進んでいる

来年度就職を目指す皆さんへ

豊かな人生のために 充実した学生生活を

就職を取り巻く状況

2013年4月採用の就職活動において特筆すべきことは、倫理憲章の改正です。

2011年3月17日に日本経済団体連合会（日本経団連）は、2013年卒向けから企業の採用広報活動を12月からと2カ月間後ろ倒しにしましたが、採用選考活動は4月からと従来通りとされました。リクナビ、マイナビ、日経ディスコなどの情報サイトも「求人情報の公開・エントリー機能については、12月以降とする」「採用を目的とした就職イベントは、12月1日以降に行う」と短期決戦になりました。そして、2012年の7月17日に日本経団連から倫理憲章を見直さないと発表があり、2014年4月採用の学生は昨年と同じスケジュールで12月から企業の広報活動開始、4月から選考開始となります。キャリアセンターでは、10月2日から4日に実施した第1回ガイダンスを皮切りに多くのガイダンスやセミナー、講座を段階的に開催し、12月から本格的に始まる就職活動に向けて支援しています。

2008年秋に起きたリーマンショック以

降、経済環境の回復もなかなか進まず、昨今の円高による輸出産業の不振等による経済環境の悪化を受けて、企業の採用に対する姿勢は慎重であり、採用人数を抑制する傾向がある一方で、新卒に対する強い採用意欲があります。グローバルな経済環境の中で国際競争に勝ち抜くためにはコア人材への投資を怠るわけにはいけません。採用は抑制する、しかし、企業の発展を支える次世代を担う人材は確保したい、これらを両立させるために、企業の「厳選採用」の姿勢が一層鮮明になりました。企業は単に数合わせで採用しているのではなく、「コアになる人材がほしい」と考えているのです。

採用終了後の企業からは、未熟な学生が目立った、業界や企業の理解が浅い、学生の二極化が鮮明になった等と短期化の影響がうかがえる感想が寄せられています。一方で、2012年3月に卒業した本学学生の就職活動を終えてのアンケート調査によりまず、応募先選択段階での反省点として、「知名度にこだわりすぎた」が1位で「業種にこだわりすぎた」「職種にこだわりすぎた」と続いています。面接・試験段階での反省点としては、「志望動機があいまい」「自己分析が不

十分」「自己PRの不足」「SPI、一般常識の勉強不足」が挙げられています（左頁参照）。

一人で複数の内々定を得る学生と最終面接に至るものの内々定を得られず、長期化を余儀なくされる学生の二極化傾向が定着したといえます。企業の知名度にこだわったり、特定の業種に偏った就職活動を行ったことに起因するケースも見受けられます。最終的な消費者の目にふれない企業であっても業績を伸ばし、発展している企業は数多くあります。就職活動が長期化した学生も就職活動を進めるうちに自分に合った企業を見る視点が定まり、最終的には満足のいく就職先を決定しているケースが多くあります。目先の企業選びではなく、自分自身がどのような道を歩みたいのか、就職活動を行うにあたってまずは考えてほしいことです。

企業の求める人材

それでは、企業はどのような人材を求めているのでしょうか。経済産業省が、職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力を「社会人基礎力」として提唱しています。「前に

今年度就職活動をした

先輩からのメッセージ

（2012年度 就職に関するアンケート）から

●文系男子 ◆毎日がスタートです。やってみて遅いことはないのです。小さな事でも積み重ねながら前へと進んでいってください。また就活の軸はできるだけ早い内に固めてください。そうすれば志望動機が書きやすくなります。自己分析よりも他己分析をして自分なりの解釈を加えておくこと面接の際の説得力が強くなります。最後に就活は諦めないことが大切です。毎日のように不採用の通知が来ることもあるかもしれませんが諦めないでください。諦めたらそこで試合終了ですよ!!

(文) ◆とにかく行動すること。家の中にいて得られる情報なんて知れています。自分の一生が懸かっている時期なので、自分が思っている以上に本気で取り組みましょう。(経済) ◆何を信じて行動するのか、という自分の判断基準を信じて頑張ってください。広い視野を持ってください。

(商) ●文系女子 ◆就活は大変な時期もありますが、途中で諦めず最後までやり抜くことがとても大切です。最初は思うようにいかなくても、諦めず企業探しを続ければきっと自分にあった企業に出会えると思います。就活の重要なことは、内定が決まるのが早い遅いではなく、どれだけ自分にあった会社に出会い、縁を手練り寄せられるかです。就活は努力だけでも、縁だけでも上手くいきません。努力とご縁の両方が必要です。ほどほどに息抜きも必要ですので、自分のペースを大切に頑張ってください。(文) ◆ただ単にこの会社へ入りたいと思うだけでなく、なぜ入りたいのか、この会社でなければいけない理

踏み出す力(アクション)、「考え抜く力(シンキング)」、「チームで働く力(チームワーク)」の3つの基礎的な能力から構成されると定義付け、その3つの能力を主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力の12の要素に区分しています。この12の要素のうち最も重要だと考えられる要素として、「企業は「主体性」と「実行力」を挙げています。日本経団連が実施したアンケートによりますと、企業が選考時に重視する能力の1位は9年連続で「コミュニケーション能力」でした。2位以下は「主体性」、「チャレンジ精神」、「協調性」と続いています。企業が新卒の学生に求める力の平均値は、「コミュニケーション能力を有しつつ、自ら主体的に行動し、実行する力」と集約できるでしょう。グローバル化が進展する中で、語学力を評価する企業が増えています。単に語学が得意だけでなく評価されません。社会人基礎力を備えた上での語学力です。

充実した学生生活を

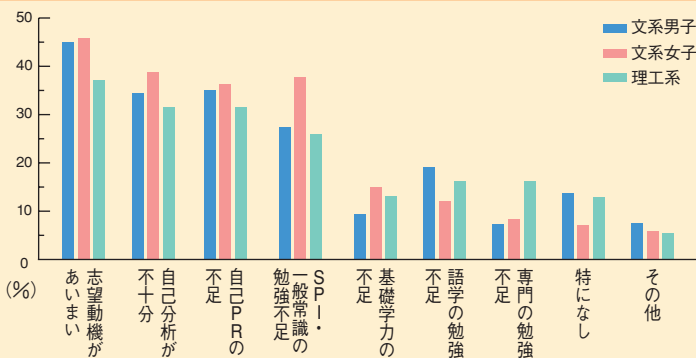
社会人基礎力を身につけるためには、何事にもチャレンジすることが大切です。授業はもとよりクラブ・サークル・ボランティア活動あるいはアルバイトを含め、自分の興味・関心のあるものを見出し、それに真剣に取り組み達成感を味わうこと、失敗や挫折を経験することが一回りも二回りも自らを成長させます。そしてそのような行動をとる中で、自ずと社会に向ける目も広がり、多

くの人と関わることで「人間力」が磨きあげられます。様々な経験を積み重ねることが卒業後の人生を豊かにするとともに、そのような過程でいろいろな気づきをして成長した学生に企業は魅力を感じ、結果として、就職活動における評価にも繋がります。漫然とした日々を送るのではなく、常に何かにチャレンジする充実した学生生活を送ってほしいと思います。

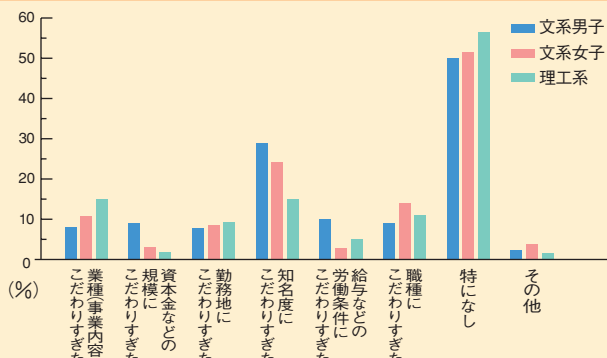
来年度就職を目指す皆さんへ

皆さんが就職する目的は、「社会での自立」、「社会参加による貢献」、「能力を生かした自己実現」ということになるかと思えます。そのためにはまず、自分自身を知ること(自己理解)が就職活動の第一歩となります。そして自分のやりたいことがどのような職業で実現できるのか、自分の力がどのような職場で発揮できるのか考えてください。それを考える手段として、O・B・O・G訪問や企業セミナーへの参加などで幅広く情報を収集することが大切です。そして業界・企業研究を経て、自分のやりたい職業、働きたい企業を見出し、業務内容をよく調べ、「自分はどの会社でどのように働きたいか」を話せるようにしておくことがポイントです。採用担当者は、面接などのやりとりから、熱意、主体性、コミュニケーション能力、問題意識や行動力を見極め、「一緒に仕事をしたい人物かどうか」を判断するからです。皆さんにとって魅力ある企業は必ず発見できるはず。自分を信じて、前向きに就職活動にチャレンジしてください。

面接・試験段階での反省点



応募先選択段階での反省点



由を考えて志望動機を考えてください。とりあえず受けようという考えは、採用担当者にはすぐ見破られてしまいますよ。また、嘘はいけません。(文化情報) ◆就職活動は辛いことが多いです。エントリーシートで理不尽に落とされたり、自信たつぷりの面接で落とされたり…。相性に左右される部分が大きいと思うので、結果に一喜一憂せず、切り替える精神力を持つことが大事だと感じました。最終的に信じられるのは自分だけなので、自分に自信を持って、満足して就職活動を終わってください。応援しています！(社会) ◆学生時代頑張ったことは人それぞれです。似ているようなPRでもできる限り自分なりの色を出すことが大切です。就職が上手くいく！などという本もありますが、大切なのは自分自身で考えて行動することだと思います。(スポーツ健康科) ●理系 ◆全力でやっても落ちるかもしれませんが、全力でやらないと落ちます。就活に正解はないので、自分がどうしたいのかを見つけてる事が大切だと思います。(生命医科) ◆一人でやらないこと。他人と自分を比べないこと。前向きでいること。企業研究は徹底的に。(理工) ◆就職活動は「自分を分析すること」、「相手を分析すること」、「自分の考えを的確に表現すること」の3つさえできれば満足のものになると私は思います。これらをできるよう努力しても不採用になった場合は、努力が足りないか相手との相性が合っていないかのどちらかです。そのときは身の丈に合っていない、入社しても不幸になるだけだからと前向きに捉え、努力を続けましょう。(工学研究科)



大河ドラマ「八重の桜」主演 綾瀬はるかさんが来学



9月8日、2013年大河ドラマ「八重の桜」で主人公・新島八重を演じる女優の綾瀬はるかさん、同ドラマの制作統括である内藤慎介さんが同志社を訪問された。

9月9日からの撮影の前に同志社墓地を訪れ、新島八重をはじめ新島襄、山本覚馬らの墓を墓参された後、新島旧邸の見学をされた。

大河ドラマの放映まで約1カ月となり関心が高まりつつある中、綾瀬はるかさん演じる激動の時代を生き抜いた新島八重が、日本に元気を与えてくれることを願っている。

(広報課)



「新島八重」に関する企画展 に同志社も協力

9月14日、特別企画展「新島八重の生涯と戊辰戦争展」が福島県二本松市の二本松歴史資料館と白河市の白河集古苑の2

会場で開催した。両会場あわせて100点以上に及ぶ資料を同志社が提供した。

開幕を祝い、それぞれの会場でオープニングセレモニーが行われ、二本松会場では同志社大学の西村卓副学長が祝辞を述べ、村田文雄副知事らとともにテープカットに参加。昨年編成された「ふくしま八重隊」が感動的なパフォーマンスを披露した。

また、同日、幕末の京都の治安維持にあたった会津藩主松平容保（かたもり）の京都守護職就任150年と、来年の大河ドラマ「八重の桜」の放送を記念した企画展「守護職拝命150年と新島八重展」が福島県会津若松市の鶴ヶ城天守閣で開催。新島八重が同市出身ということもあり、多数の資料を提供するなど同志社も全面的に協力した。

企画展は11月4日まで行われ、期間中は大勢の観光客が貴重な資料を通して八重の生涯をたどった。

(広報課)

青森県風間浦村で 国際交流事業を開催

9月4日～7日に、本学留学生4人（韓国2人、モンゴル1人、インドネシア1人）が青森県風間浦村を訪問した。

風間浦村と本学留学生との交流事業は1992年から始まり、歴史あるプログラムである。留学生たちは、村内の3つの小学校（下風呂小学校・易国間小学校・蛇浦小学校）と1つの中学校（風間浦中学校）で、

事前に準備したパワーポイントを使いながら、母国の文化、社会、教育、また来日して驚いたことなどを紹介した。児童生徒たちも事前に留学生たちの出身国について詳しく学習しており、ユーモア溢れる活発な質疑応答がなされ、大いに盛り上がった。

また児童生徒たちからも、自分たちが暮らす村や学校、日本文化の紹介を行うなど積極的な異文化交流が行われた。さらに留学生たちは、べこ餅（伝統的な和菓子）作り、餅つき、書道、かるた、福笑いなどの日本の伝統文化を児童生徒たちに教わりながら楽しんだ。

村内ではホームステイも経験し、ホストファミリーと心温まる楽しい時間を過ごした。今回の訪問で、留学生たちは風間浦村の方々の温かさ、子どもたちに対する先生方の熱い思い、児童・生徒たちのハキハキした発表、まっすぐな優しさに感動し、いつかぜひ再訪したいと口々に語っていた。



風間浦村との交流は今年21年目を迎え、10月13日には交流20周年記念式典が風間浦村にて開催された。今後ますます風間浦村と本学の交流が発展し、さらなる強い絆で結ばれるよう、心から願っている。

(国際教育インスティテュート事務室)

第5回世界学生環境 サミット in スイス 2012が開催

本学が先導して毎年実施する「世界学生環境サミット」(WSES: The World Student Environmental Summit)が9月5日から8日の4日間、スイスのローザンヌ大学で開催され、オープニングセレモニーではサミット本部局である本学の代表として八田英二学長の挨拶が行われた。

世界の様々な国の大学生が環境問題について議論する本サミットは、本学の学生団体である「同志社エコプロジェクト」のメンバーが考案し、様々な立場の学生が協力して第1回大会を2008年6月に本学で開催。その後、第2回はカナダのピクトリア大学、第3回はドイツのテュービンゲン大学、第4回はスウェーデンのブレイキング工科大学で開催し、第5回の今年は31



カ国・38大学の71人が参加した（本学からは3人の学生が参加）。世界全体の環境意識が高まる中、開催されることに規模が拡大し、参加校や参加者が毎年増加している。

本サミットでは、環境に関わりの深い著名人の講演、ヨーロッパ国連本部でのセッション、グループワークによる議論等の場が設定された。「世界学生環境サミット」に集う学生は、国の利害や様々な社会のしがらみにも縛られない自由な立場と地球の未来



を担う若い世代であるという有利な立場にあり、このサミットへの参加を自分たちの学生時代に与えられた幸運な機会ととらえて、自分自身の未来のために極めて貴重な経験となっている。議論は連日夜遅くまで続き、互いに熱く意見を交換し合った。

近年、地球温暖化など地球規模の環境破壊問題が世界的に解決すべき課題となっており、本学においても教職員、学生が協力して省エネルギーや温室効果ガス抑制、廃棄物処理などに積極的に取り組んでいる。「世界学生環境サミット」及び本学が本局である「世界学生環境ネットワーク」(WSEN:The World Student Environmental Network)の取り組みは、本学学生が、世界を意識しながら環境保全の意識を高めた上で社会に踏み出す意味でも極めて重要であり、今後も推進していく予定である。来年はドイツのロイフアナ大学で開催されること

が決定している。
(環境保全・実験実習支援センター)

同志社ハリスフォーラム2012 「スマートグリッド—未来の電力網—」

9月21日、京田辺校地恵道館にて「同志社ハリスフォーラム2012」が開催され、6人の講師による講演が行われた。

JKParkソウル大学教授には、韓国政府

主導による済州島でのスマートグリッドプロジェクトについて、政府制作のコマーションビデオも含め説明いただいた。2009年5月から3年にわたる第1期プロジェクトの総括として「インフラ整備の初期投資が膨大になるため、関連業界に経済的メリットがないとスマートグリッドの本格的実施は困難である」との指摘があった。

ピューン大学(インド)のAshta Shengde氏には、インドでのスマートグリッドの進捗状況を説明していただいた。また、ランパン大学(インドネシア)のDiah Permata氏からはインドネシアの状況について説明していただいた。両国とも、スマートグリッドの運用以前に電力の確保そのものが問われている状態にあることが明らかであった。

関西電力株式会社の小田直樹氏からは、スマートグリッドの一環として必要不可欠な環境調和や、CO₂削減への電力会社としての取り組みについて講演いただいた。しかし、風力発電や太陽光発電による電力はその品質が低いため、低品質の電力が電力会社の高品質な電力系統に接続されることは、頭の痛い問題となっている。

日新電機株式会社竹内雅靖氏はスマートグリッドにおいて、需要者・発電者(家庭等)と電力会社間の買電・売電の要となるスマートメーターは、メーカーの立場からは「新商品としての期待も大きい」が計算機端末と同様の機能を有することから、ハッカー等が侵入し、大停電に至った時の責任の所在を含め、規格・法制度の整備が課

題である」との説明があった。

最後に長岡直人理工学部教授にスマートグリッドに対する本学のこれまでの取り組みの紹介を行っていただくとともに、その技術的課題および政策上の問題等について解説いただいた。

午後1時から5時間以上にわたる講演会であったが、各講演者とも興味深い最新の話題を分かりやすく説明され、161人に及ぶ参加者は最後まで熱心に耳を傾けていた。フォーラムに対する参加者の評価も好評であった。

委員長 雨谷 昭弘
(同志社ハリスフォーラム実行委員会)

同志社大学×京阪電車 連携イベント「サークル ステーションIN三条」開催

9月22日、「サークルステーションIN三条」を京阪電車三条駅にて開催した。本イベントは今年で3回目となる京阪電車との連携イベントであり、昨年までは「グリークラブ」、「マジック&ジャグリングサークルHocusPocus」の

2団体のみでの参加だったが、今年には「ギタークラブ」、「鉄道同好会」、「Meahua Nohetani」、および同志社女子大学の「フラメンコ部」の4団体も加わり、内容も多彩となった。
開会に先立ち、桂良彦学

生支援機構事務部長の挨拶、および西蘭駅長の挨拶が行われ、ついでグリークラブの男声合唱が披露された。今年「Doshisha College Song」「若草萌えて」といった同志社の歌だけではなく、J・POPやアニメソングを曲目に入れ、より親しみやすい合唱となった。続くMeahua Nohetaniの華やかなフラダンスは観客を魅了し、ギタークラブのフラメンコギターの音色とフラメンコ部のダンスのコラボレーションは、その迫力で観る者を惹きつけた。会場南側に設置した鉄道同好会の

ブースでは、鉄道模型の展示と走行会を行い、車掌体験を行うなど、子どもからご年配の方まで鉄道模型を前に目を輝かせていた。最後に登場したHocusPocusは、お手玉や中国ゴマを使ったジャグリングや、リング、トランプを使ったマジックを披露し、会場を沸かせた。

当日は、京都市内で大きなイベントが開催されていたこともあり、京阪三条駅には多くの方が訪れ、会場へは鉄道同好会のブースも含めて、延べ1,000人を超える観客が訪れ、大盛況のうちに幕を閉じた。
(今出川校地学生支援課)



第10回全日本学生フォーミュラ大会で総合成績3位に!

9月3日〜7日の5日間にわたって静岡県のエコパ(小笠山総合運動公園)で行われた第10回全日本学生フォーミュラ大会に、同志社大学のプロジェクトチーム DUFJ(Doshisha University Formula Project)が出場。国内外の参加校82校の中で総合成績3位、私立大学中で1位の成績を取めた。本大会には中国、タイなどからの参加もありアジア選手権でもあった。

DUFJはプロジェクト科目「ひとつくり、ものづくり」と機械研究会の合同チームだが、メンバーは1〜3年生のみで構成されている。全日本学生フォーミュラ大会には第1回大会から参加している。今年こそは1桁入りを目指し、メンバーが力を合わせて日々奮闘した。数年前までは、マシントラブルが続

出、上位入賞は無理かと思われたが、3年前からマシンが安定、完走できるようになった。そして今年、長年の目標であった「全国総合1桁順位」という目標を大きく超え、総合3位の成績を達成



した。来年度は今年度のフィードバックを行い、さらなる順位を目指してプロジェクトが進められる。



大会結果の詳細は以下の通り。

- ・総合 3位(全82校中)
- ・アクセラレーション 26位
- ・コスト審査 7位
- ・スキッドパッド 10位
- ・プレゼン審査 22位
- ・オートクロス 7位
- ・デザイン審査 9位
- ・エンデュランス 4位
- ・燃費 12位

(広報課)

今年度の司法試験結果について

9月11日、本年5月に実施された司法試験の合格者が法務省から発表されました。本研究科(同志社大学法科大学院)の修了者は44名の合格(昨年は65名)であり、法科大学院別合格者数では全国第12位でした。関係の皆さま方には日頃のご支援にお礼申し上げますとともに、今後ともご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(司法研究科)

■平成24年度 司法試験 法科大学院別合格者数

順位	大学名	合格者数
1位	中央大学	202人
2位	東京大学	194人
3位	慶應義塾大学	186人
4位	早稲田大学	155人
5位	京都大学	152人
6位	明治大学	82人
7位	一橋大学	77人
8位	大阪大学	74人
9位	神戸大学	60人
10位	北海道大学	54人
11位	九州大学	53人
12位	同志社大学	44人
12位	名古屋大学	44人
14位	立命館大学	43人
15位	首都大学東京	40人

本学教員の執筆図書を紹介

図書館調べ(価格は税別)

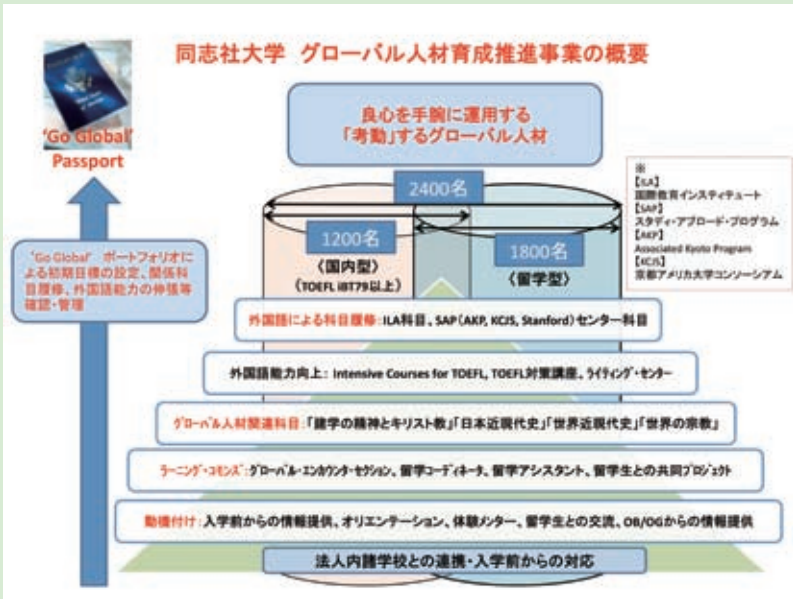
- ガバナンス論の現在 新川達郎 他著 勁草書房 3,000円
- 再検討教育機会の平等 楊奕 他著 岩波書店 3,500円
- 臨床医学入門 第2版 市川寛 北條達也 他著 講談社 2,600円
- 臨床栄養管理学各論 第2版 市川寛 他編著 講談社 2,600円
- 原発廃炉に向けて 室田武 他著 日本評論社 1,600円
- 遺留分 第2版 神谷遊 他著 日本評論社 5,600円
- アジア系アメリカ文学を学ぶ人のために 白井雅美 他著 世界思想社 2,800円
- 地域資源を活かす温暖化対策 新川達郎 他著 学芸出版社 2,400円
- 誰が「地球経済」を殺すのか 浜野子 著 実業之日本社 1,400円
- 藩校・私塾の思想と教育 沖田行司 著 日本武道館 2,400円
- ドイツ不法行為法 野々村和善 他訳 法律文化社 7,800円
- 社会調査データ解析 鄭麗華・金明哲 著 共立出版 3,700円
- いま、働くといふこと 橋本俊昭 著 ミネルヴァ書房 2,000円
- 会社法コンメンタル21-雑則(3)罰則 森本滋 他編 商事法務 4,300円
- 植民地共和国フランス 菊池恵介 他訳 岩波書店 3,600円
- 中世の学芸と古典注釈 岩坪健 他著 竹林舎 1,500円
- 公務員革命 太田肇 著 筑摩書房 7,400円
- Translation in modern Japan 佐伯順子 他著 Routledge 4,900円
- 格差と多様性 尾崎史章 他編著 浦坂純子 他著 東京大学出版会 4,800円
- 神学的数学の原型 添合仁司 著 現代数学社 1,800円
- 化学工学便覧 改訂7版 土屋浩美 近藤和生 他章担出編 近藤和生 松本道明 他著 丸善出版 3,600円

文部科学省 平成24年度「グローバル人材育成推進事業」タイプA（全学推進型）に採択

本学の「良心と進取の気性に溢れる同志社グローバル人材養成のための実践的取組 (Doshisha Educational Program Filled with Conscience and Enterprise for Global Competence)」が、文部科学省平成24年度「グローバル人材育成推進事業」タイプA（全学推進型）に採択されました。

「グローバル人材育成推進事業」は、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化を基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図る

べく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して重点的に財政支援する文部科学省の事業です。現在、留学生の受入を主目的とする「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」(Global30事業)を推進しており、今回の採択事業は、Global30事業による留学生の受入促進と対をなし、留学を中心とした本学学生のグローバル化を促進するものです。これを機に、科目の新設、来年4月開設のラーニング・コミュニティの活用等により、本学のグローバル化をさらに加速・充実させていきます。



【概要】

本構想は、4年間の在学期間中にわたる学生一人ひとりの全人的な成長と陶冶、及びそれを支援する教員のグローバル教育力の伸長を促すことを目指しています。この実現のために、有機的に連携した2つの教育プログラム、「留学型」と「国内型」を設定しています。「国内型」は国内にいながら、グローバル人材の育成を図る教育実践取組です。

文部科学省ホームページ
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/09/126068.htm
(国際連携推進機構)

文部科学省 平成24年度「博士課程教育リーディングプログラム」に採択

文部科学省の平成24年度「博士課程教育リーディングプログラム」の「複合領域型(多文化共生社会)」に本学の「グローバル・リソース・マネジメント」が採択されました。

プログラム名

「グローバル・リソース・マネジメント」

■区分: 複合領域型(多文化共生社会)

○基幹研究科: グローバルスタディーズ研究科、理工学研究科

連携研究科・専攻: 神学研究科神学専攻、文学研究科哲学専攻、社会学研究科社会福祉学専攻/産業関係学専攻、法学研究科公法学専攻、経済学研究科経済政策専攻/理論経済学専攻/応用経済学専攻、商学研究科商学専攻、総合政策学研究科総合政策学専攻

○プログラムコーディネーター: 内藤 正典(グローバルスタディーズ研究科グローバルスタディーズ専攻 教授)

○プログラムの履修期間: 博士前期・後期課程を一貫する5年間

■概要

本事業では、多文化共生のために「グローバル・リソース・マネジメント: Global Resource Management」という新たな学際領域を設定します。人間生存の基盤である「資源・エネルギー工学、インフラ科学」と地球規模の現代的課題群に関わる人文・社会科学を融合した学位プログラムを構築します。リソース・マネジメントの本質は、天然資源や人的資源・社会関連資本を適切かつ公正に管理・運用することにより、共通リソースとしてのインフラストラクチャを保持可能な発展と人々の平和と安寧のために構築・改善していくことにあります。自然科学分野における最適化問題を社会科学の側面も含めて鳥瞰し「国家資源や社会インフラが」人間の創出するシステム」であることを学ぶ学生を本事業で支援します。

本プログラムでは、この認識を基にした実践的文理融合知をベースに、現在の困難を解決し、隘路に陥つてもなお打開策を見いだす能力を兼ね

備えた博士学位を有する高度専門職業人を養成します。

■プログラムの特色

【良心教育の継承】

本プログラムが養成しようとするリーダーとは、いわゆる「トップ・エリート型」リーダーではありません。創立者・新島襄の「一国の良心とも謂ふべき人々の養成」という理念を現代のグローバル社会に適用し、宗教や文化の相違を十分に理解し、配慮した上で、世界の中でも新興国や最困難国・地域において、地域の人々と同じ目線で、ともに汗をかいて問題の解決にあたることのできるリーダーの養成を目指すものです。

【文理融合型リーダー】

上記のような国や地域で国づくり、社会形成に貢献しようとする技術者は、単に科学技術の諸知識を有しているだけでなく、それぞれの国や地域の固有の文化や宗教、習慣や生活様式を理解しなければなりません。また、いわゆるグローバル・イシューの解決に貢献しようとする社会事業家は、単なる文化や宗教理解にとどまらず、それらの地域の社会改善・改良のためのインフラについての基礎的知識を持つことが求められます。本プログラムでは、右記の2つの基幹研究科の持つ「強み」を結合して、当該地域の社会形成や改善に実際に貢献できる「文理融合型」の人材育成を目指し、実践的文理融合知を身につけることができる講義や演習を設定しています。

■選抜試験 応募資格

上記に記載している本プログラムの基幹研究科、または連携研究科・専攻の博士前期課程に在籍する1年次生(2年次生は要相談)。

本プログラムについてのお問い合わせ先
高等研究教育機構高等研究教育課
担当: 水船・高村

075-251-3250
i:kken@mail.doshisha.ac.jp
(高等研究教育課)

Şimdi yaşadığım bu ülkenin hayalini ilk kez on bir yaşındayken, Ay Savaşçı'sını izlerken buldum. Bana izlemeyi sevdiren o çizgi filmi nasıl bir yerin insanları yapmıştı, belki de o yer öyle ince düşünen insanlarla doluydu diyerek... Araştırma alanında çalışmak isteyişimin sebebi ise yine çocukken ve lisedeyken okuduğum kitaplardır. Çünkü okuduğum romanlar beni dışarıdaki dünyaya meraklandırdı; yani değişik ve yeni şeyler için emek vermenin, geleneksel mesleklerden daha tatlı olacağını bana hissettirdi. Böylece ben sevdiğim alanda yeni şeyler keşfetmeye, bunun için ter dökmeye, bilim insanı olmaya karar verdim. Biraz garip ama üniversiteye ilk başladığımda Yasunari Kawabata'nın Türkçe'ye "Kyoto" diye çevrilen romanını okurken bu tarih dolu şehirde olma hayalini kurmuştum; şimdi ise burada okuyorum, çalışıyorum, sabahları kalkıp havasını soluyorum. Benim çocukluğumu da hayalimi de bir yana bırakırsak yine burada çalışmayı çekici kılan önemli sebepler var: Eğitime ve araştırmaya verilen önem, hep birlikte insanların çalışmalarına kendilerini vermesi, düzenli ve saygılı olmaları gibi birçok güzel, arkada bırakıp geldiğim ailemi telâşlandırmayacak hoş sebepler... Okul olarak gitmek istediğim birkaç aday üniversite arasından Doshisha Üniversitesi'ni seçmemin önemli bir sebebi beni iyi bir insan ve araştırmacı olarak yetiştireceğine inandığım iyi bir hocayı bulmam, yine bir çırağa gerekli olabilecek değişik olanak ve kaynakların bulunmasıdır. Altı ay geçirdikten sonra Doshisha hakkında iyi ders olanakları da renkli etkinlikleriyle sosyal olma fırsatları da olan, gerçek bir kampüs havası bulunduran iyi bir üniversite olduğunu düşünüyorum. Bundan ayrı diğer bölümlerdeki seçkin ve konuştuğumda öğrenme hevesimi tetikleyen hocalarla tanışmak da buraya geldikten sonraki bir ayrıcalığım oldu. Ömrüm olursa, ileriye dair en zor hayalim iyiyi kötüden ayırt etmekte ustalaşmak. Gerçekten iyiyi fark edip kötüden seçip almak beni de çevremdeki insanları da kurtaracak tek yöntem olduğundan. Bir de en güzel şekilde, okuyanlara hediye olan yazılar yazmak, yazabilmek....

Sultan Lülecioğlu

今暮らしているこの国に初めて思いを馳せたのは、「セーラームーン」を観た11歳の時でした。こんなに楽しいアニメ番組をどんな国の人々が作ったのか、もしかするとそこは、このように繊細な発想をする人々で溢れているのかと想像しながら…。研究分野には、子どもの頃と高校の時に読んだ本が影響しています。その頃に読んだ小説が、外の世界への興味を私に抱かせてくれました。未知の分野に取り組むことは、一般的な仕事に就くよりも面白いだろうと感じたのです。そして私は、自分が好きな分野で新しいものを発見しよう、そのために汗を流そうと、学者になることを決意しました。

京都に来たのは偶然ですが、京都に住み始めて、以前トルコで読んだ川端康成の「古都(トルコ語訳では「京都」)」という小説を思い出しました。自分が今、本の世界と同じ世界にいることに気が付き、何だか不思議な気持ちです。日本の高い教育レベルと日本人の国民性の良さは、トルコにいる私の家族を安心させています。

行きたいと思ったいくつかの大学の中から同志社大学を選んだ主な理由は、私を立派な人間、かつ研究者に育ててくれるだろうと確信できる先生に出会えたこと、さらには、学ぶのに必要となるであろう、普通ではなかなか利用できないような施設(機材)と文献があることです。同志社大学で6カ月を過ごし、研究以外にも大学祭や部活などの様々な社会生活にふれる機会もあり、真のキャンパスと呼ぶにふさわしい、雰囲気のある良い大学だと改めて思っています。また、話すたびに学ぶ意欲をかき立ててくださる素晴らしい先生たちと知り合えたことも、私にとって特別なものとなりました。この先の人生を考える時、もっとも難しい課題は、いかに正しく善悪の判断をつける人間になれるかです。悪いことの中から正しく善いことを選び出すことは、自分自身だけでなく、周囲の人々をも救う唯一の方法だからです。さらには、読み手側への贈り物となるような、上手な文章を書けるようになることです。

スルタン・ルレジオウル

2012.4～ 生命医科学研究科医生命システム専攻に在学(トルコ出身)

喜多 あおいさん に聞く

インタビュー
古川 航平さん
〔政策学部2年次生〕



古川 ● 喜多さんの職業であるリサーチャーとはどのような仕事なのでしょうか。

喜多 ● リサーチャーとは、クライアントの依頼に応じて企画・制作に必要な情報を集めたり、情報の精度を吟味したりするのが仕事です。私が手がけているのは、主にテレビ番組の企画・制作ですが、ニーズによって関わり方は多岐にわたります。

古川 ● どうしてその仕事に就こうと思われたのですか。

喜多 ● その質問に答えるために、まず私がなぜ同志社大学の文学部国文学専攻に入ったのかというところからお話しします。私は日本の文学作品に興味があり、好きな作家がどういう過程を経てその作品の完成にたどり着いたのか、それを知りたいという思いから「大学では国文学を学ぶ」と決めていました。さらに、好きな作品の舞台が京都であったり、作家自身も京都に縁がある方だったりしたので、京都の大学で学ぶというのを一番に考えました。

古川 ● 国文学を学ぶことからどうしてリサーチャーの仕事に？

喜多 ● 国文学専攻では、1・2年次生で国文学を学ぶために必要な「武器」を備えるための基礎ゼミがあります。そこで身につけたのが、調べものをする時、何を調べれば

今回の同志社人

喜多 あおいさん

【1987年文学部卒業】

1964年生まれ、神戸市出身。卒業後、出版社勤務、新聞社での有料新聞記事データベース構築、作家秘書などをを経て、1994年からテレビ番組リサーチャーの活動を開始した。1998年、株式会社ズノーでジーワン調査部を立ち上げ、現在同社執行役員。情報バラエティからクイズ、ドキュメンタリー、ドラマまで、テレビ番組の企画・制作に必要なリサーチを行う。著書に『プロフェッショナルの情報術 なぜ、ネットだけではダメなのか?』がある。



どのような情報が得られるかという文献へのアプローチの方法でした。その武器をもとに、3年次から卒論を書くための準備を始めますが、私にとって一番楽しかったのが、卒論を書くための膨大な資料集めだったので。調べものはこんなに楽しいのか、これを仕事にできたらどんなにいいだろうと、その時に思いました。卒業後は出版社から新聞社、作家の秘書と転職を繰り返してきましたが、調べものを仕事にするという目的はずっと変わっていません。

古川 ● リサーチャーという職業に就くことになったきっかけはあるのですか。

喜多 ● 作家の秘書をやめて職場を模索している時偶然「世界ふしぎ発見」という番組の舞台裏を追った新聞記事を見つけたのです。そこには番組作りに携わるスタッフの1人としてリサーチャーという役割の人がいて、番組の中で紹介する様々な情報や出題するクイズの材料などを集める



を書いて、あのクライアントに出す情報、このクライアントに出す情報と分けてみると、エントリーシートも提出先の企業に合ったものになるのではないのでしょうか。

古川●課題のレポートを書く時にも役立つそうですね。

喜多●レポートをブラッシュアップするためには、ポイントが2つあります。1つはキヤッチを見直すこと、もう1つは順番を入れ替えてみることに。最初に何が書かれているかで全体のイメージが変わりま

べものをする時はマトリックス図を作ることをお勧めします。縦横の軸に情報を並べることで整理していく手法ですが、縦軸と横軸を何にするか、それを決めた時点で、ある程度の方向性が見えてきます。そして、集めた情報がマトリックスのどの辺りに分布するかを考えていくと、視覚的に関連性が分かるので、理解が容易になると思います。

古川●喜多さんにとってリサーチという仕事の魅力はどこにあるのでしょうか。

喜多●私は白黒はつきりさせるのが好きな性格です。この仕事は、すぐに結果が出るのが魅力です。会議の中で山ほどある提案の中から、「あなたの情報で行きましょう」ということが、その場で決まる。決定が早いと何がいかというと、すぐに切り替えて次の仕事

古川●情報の集め方のポイントを教えてください。

喜多●あらゆる情報ツールは使われるのではなく使

きなさい。使えない情報かどうかは、出典が明示されていることが判断基準

になります。それから、文章が5W1Hの構成になっているかどうか、情報の正確さを計るには重要なポイントです。もう1つ、調

仕事をしていると書かれていました。テレビは調べものの対象になるエリアがすごく広い。「これが私のやりたい仕事だ！」と思いましたが、それから毎日、新聞の求人欄を見て、半年後によくリサーチャーを募集している会社に巡り合ったのです。

古川●調べものをする時に大事なことは何ですか。

喜多●まずは求めるテーマそのものを調べたくなりますが、その前に大事なものは、まつわる情報を網羅するということ。調べるといって大層なものではなく、眺めるというだけでもいい。いきなりピンポイントで探さないことです。ピンポイントで探す、その周辺にある重要な情報を見落とす、してしまう恐れがあるので。テレビの仕事で言うと、歴史番組、科学番組、ドキュメ

ンタリーを作る時には、縦に深く掘り下げる調べ方をします。しかし掘り下げる時でも、まず全体を眺めて、構成要素となり得るようなものを見渡してから深めるのが基本です。

古川●リサーチはこうでなければならぬという定義はあるのですか。

喜多●それはクライアントによって変わりますね。担当のディレクターがどんなのか、構成作家の下準備として使い勝手がいいものだけを求めているのか、それによつて作成するレジュメの体裁から掘り下げ方まですべてが変わります。それは、就職活動で書くエントリーシートと同じだと思います。エントリーシートはいわば、自分自身を調べたレポート。自分レポート



り替えて次の仕事に方向転換できるのです。もし採用されなくても、そうした1つひとつの仕事がスキルやノウハウと成って積み重なっていきます。私たちの仕事は作る人のインスピレーションのスイッチを押すということですから、自分がクライアントの考えを変えるのではなく、相手に変えてもら



喜多 ● 私は授業がある時もない時も1講師から学校へ行って、終日京都で過ごすほど京都が好きでした。その時に、もっと美術館や博物館へ行っておけばよかったなと思います。一度でも本物を見たことがあるという経験は自分の大きな引き出しになりますし、展

古川 ● 逆に、これをしてあげばよかったということはありませんか。

喜多 ● この仕事をしていたよかったです。学生時代に学んだことが直結して仕事に生きるということだと思います。ツイズ番組をたくさん担当しているの、教科書から出題すること

うことが大事です。実際変わってくれるとうれしいですね。

古川 ● 学生時代のことに戻りますが、これをやっておいてよかったと思うことはありますか。

古川 ● 最後に僕たち学生にアドバイスをいただけますか。

喜多 ● 今の若い人たちに言いたいのは、予測変換依存症にならないようにしてほしいということです。携帯電話にもパソコンにも機能がついていますが、脳の回路の働きを最も妨げているのは予測変換です。それに頼っている間にどんどんものを考えなくなってしまうんです。それから、ツイッターをフォローする時などでもそうですが、必ず対極の考え方の人をフォローする

覧会などのプログラムは情報の宝庫なので。知識にもなるし、その世界の専門家もそこから探せます。一般に売っていないし、みんなが持っているわけではないので、他の人にちよつと差をつけた情報を得ることもありません。

こと。例えば、ある事柄に賛成の人をフォローしたら、反対の人もフォローすると、いったようなことです。偏ったソースからだけ情報を得るようにしていると、気づかないうちに自分の考え方も偏ってしまい、それがすべての世界だと思ひ込んでしまいます。大学生活で言えば、登録している授業には出席して、課題も真面目に取り組みしましょう。私も在学中は思いもしなかったけれど、大人になると絶対にもう一度勉強したくなります。課題をこなすための過程やその中で得た情報の引き出しは必ず次の何かにつながりますから、大切にしてほしいと思います。

古川 ● 本日は貴重なお話を伺えて、大変勉強になりました。どうもありがとうございます。



INTERVIEWER

古川 航平さん

政策学部2年次生

環境問題について学びたいと政策学部への入学を決めた。友人に誘われて広告研究会に入会、現在はマーケティングに関する活動を主体に行っている。将来は、発想力を発揮して政策立案を行い、企業にプレゼンテーションしていく仕事に携わりたいという。

自分のしたいことを仕事にする。自分もそうありたい。

自分自身、どちらかといえばクリエイティブ派で、情報を集めるのは得意ではありません。調べ方や情報へのアプローチの仕方がわからなかったのが、マトリックスを使うことなど、大変参考になりました。喜多さんは大学時代に「調査」という自分の一番したいことを発見して、社会に出ても自分が本来したかったことをそのまま仕事にされています。興味のあることを仕事に生かしている人は輝いていて、自分もそうありたいと思いました。レポートをブラッシュアップするコツなど、喜多さんの話のすべてが新鮮かつ役に立つことばかりで、本当に得難い経験だったと感謝しています。

大学で得たチームワークの経験を 礎に、“自分の仕事”をかたちとして 世の中に残す。

大学時代に進路を考えた時、「自分が携わったものを世の中にかたちとして残したい」という思いを一番強く抱いたことが、鹿島建設に就職するきっかけでした。父親が設計士だった影響もあったと思います。

私は法学部出身のため、父のように設計の仕事をすることはできません。しかし、建設会社には現場事務というものづくりの前線に立っている仕事があります。プロジェクトの現場へ赴いて事務所を開設することから始まり、決まった工期と予算で完成するように調整することはもちろん、お客さまや実際に工事を行う職人さんに至るまで、現場に関係するすべての人々が気持ちよく生活や仕事ができるように多方面からサポートします。営業や経理、人事といった仕事はどんな会社に行ってもありますが、現場事務の仕事は建設業界にしかないものです。建設工事は建設現場周辺に及ぼす影響も大きいため、近隣住民の方々にご理解とご協力を得ることも必要です。現場で起こるありとあらゆる事象に対応し、無事に建物が完成してお客さまに引き渡すことができた時は、何物にも代え難い喜びがありますね。

鹿島建設に入社して3年目、埼玉の支店に

配属された時のことです。既存の線路をまたぐ道路を新設するため、線路を高架化する工事を当社が担当することになりました。私が現場事務担当として派遣されたのですが、工事用のネットフェンスが強風で飛ばしてしまい電車の走行を妨げてしまうなど、予測不可能なことが次々に発生しました。それでも「自分の現場だ」という大きな責任感を持って奮闘し、幾つものアクシデントを何とか乗り越えて高架橋が完成。お客さまである鉄道会社の方々も現場に連れて来て、緊張感に包まれる中、高架橋の上を始発電車が無事に走った時の感動は今も忘れることができません。

2006年5月に関西支店へ異動になり、現在は支店での現業部門の決算対応、税務対応、社内監査対応などの審査業務に就いていますが、現場とは密接につながり、どちらかといえば現場事務に近い仕事です。法務や人事などの業務も担当したことがあります。やはり現場へ赴き様々な人と関わりながら、ものづくりを実感できる現場事務の仕事に最もやりがいを感じますね。

大学時代にさかのぼると、体育会ソフトテニス部に所属し、4年間はソフトテニス一色の生活でした。残念ながら大学日本一にはな

りませんでした。チームとして頂点を目指して頑張ったことは今でも良い思い出であり、当時の仲間には、私にとって一生の宝物です。建設現場の仕事もそのプロジェクトのために集まったチームで取り組むもの。チームワークが悪ければ、決して良い仕事をすることはできません。大学時代のクラブ活動で経験したチームとして取り組むことの難しさ、逆にチームで取り組むからこそ得られる喜びを知っていることは、今の仕事にも大きなプラスになっています。今後も様々な経験を積み重ね、自分の仕事“をかたちとして世の中に残していきたいと思っています”。



木田 琢仁さん【2000年 法学部法律学科卒業】
鹿島建設株式会社 関西支店 経理部 審査グループ 課長代理

中・高と続けてきたソフトテニスを大学でも継続。体育会ソフトテニス部では副キャプテンとしてチームをサポートした。鹿島建設入社後は、名古屋支店で法務や現場事務に携わり、ときに人事も担当した。現在は審査業務で経理面での監査などを行っている。「大きな現場は会社としても損益的な重要度が高い。そういう現場に派遣され、「木田に任せておけば間違いない」と言われるような人間になりたい。そしていつか、街のランドマークになるような建物の建設に携わり、自分の子どもたちに「パパの会社がつくったんだよ」と自慢するのが夢」と話す。現在リクレーターも務めており、「学生時代に何かを一生懸命やったという人は、話を聞いてすぐにわかる。運動でもサークル活動でも、自分の考えをしっかりと何かに取り組んでほしい」と学生へアドバイスを送る。

これをやりたいという明確な理由を持って転職。自信を持つことが道を開いた。

日産自動車に入社して9年目ですが、大学で噴霧の研究をしていたので、卒業後はインジェクター(燃料を霧状に噴射するノズル)という部品を開発している外資系企業に就職しました。入社1年目の2月、自分が開発に関わったインジェクターを携えてドイツの本社に長期出張をする機会があったのですが、その時に聞いた「いくらよくできた部品でも、それがうまく機能するように全体としてマネジメントできていなければ、部品のよさは生かされない」という現地社員の言葉が耳に残りました。

ガソリンエンジンの場合、マイクロコンピュータが、エンジンの運転条件に応じて燃料噴射量や点火タイミングを制御しています。燃費や出力を向上させるためにはどのように制御するのが最適かを考慮し、制御値を決定することを「適合」と呼び、これは広いグラウンズに落ちたビー玉1個を見つけ出すような気の遠くなる作業なのです。適合の魅力を料理に例えると、素材(部品の特性)を活かし、リーズナブルにカロリー(燃費)と味(パワー)とを両立させ、お客さまに喜びを提供できることです。ドイツで初めてそうした業務のあることを知り、ぜひ適合を仕事にしたいと思い転職活動を始めました。ちょうど日産自動車では技術職の

募集をしており、面接時に「適合の部署に配属されないなら採用しないほしい」と素直な気持ちや伝えました。外資系企業で働いた2年間、社会人として必要なスキルを身につけたという自信があり、やりたい仕事に就くための就職活動だったからこそその言葉です。

入社後は希望していたガソリンエンジン性能適合グループに配属され、最初の3年間は北米で販売している「アルティマ」と「アルティマ・ハイブリッド」を担当。その後、現在までの5年間はより効率的な実験手法やプロセスの開発に携わっています。私が所属する適合グループでは目に見えるものを製作するのではなく、個々の部品を組み合わせた時に最適な状態にする「性能設計」を担当しています。つくり出しているのはコンピュータの中の数字なので成果はモノという形になって現れるわけではありませんが、お客さまの喜びと直結しています。自分の手がけたクルマに乗ったお客さまに「燃費がいい」と褒められることが、何よりもうれしいですね。

り直す方向を選ぶことが、人生には必要なのではないかと思えます。そしてもう1つは、別の方向を選択する時は理由を持つべきだということ。理由がなければ、なぜ間違っただのか、なぜやり直すのかがわかりません。明確な理由を持つことが、新しい道へ進んでいく上での自信にもなると思うのです。

学生の皆さんにお伝えしたいことは2つあります。1つは間違っただけでやり直すという選択肢を持つこと。これでなければいけないと決める真剣さも大事ですが、とことんやってそれでも間違っていると思った時には、勇気を持ってや



河口 しげ子さん【2002年 工学部機械システム工学科卒業】

日産自動車株式会社 パワートレイン開発本部 パワートレイン実験部 ガソリンエンジン性能適合グループ

大学時代は3年次までテニスに熱中し、4年次に上がる前に休学してアメリカへ。シアトルの語学学校に通っていた時「英語を教える職業に就くのならばここで勉強するのもいいけれど、あなたにはほかにやりたいことがあるんでしょう。英語は手段の1つにすぎないのよ」というホストファミリーのお母さんの言葉でもう一度自分を見つめ直し、技術者への道を選択した。現在の仕事は非常にハードであるという。その中で「ハードな職場でも自分が望み、努力すれば活躍できる。必要なのは「明確な意思」「諦めない心」「やる気」です」と語る。

【空手道部】

全日本空手道選手権大会

- 12月8日(土) 9:00～ 会場:東京武道館
- 12月9日(日) 9:00～ 会場:日本武道館

第23回 同志社京田辺 クリスマス燭火讃美礼拝

クリスマスはキリストの誕生を記念し、すべての人々が愛と信頼によって結ばれる未来を待ち望む祝祭です。キリストの希望を象徴するキャンドルの光のもと、ともにクリスマスの礼拝を捧げましょう。皆さんのご来場をお待ちしています。なお、礼拝では手話通訳が行われます。

【日時】12月8日(土)

開場 16:00 / 開始 16:30 (終了予定18:00) 入場無料

【会場】京田辺校地 同志社新島記念講堂(女子大学構内)

【お問い合わせ先】京田辺校地キリスト教文化センター
TEL:0774-65-7370

アドベント讃美礼拝・クリスマス礼拝

●今出川火曜チャペル・アワー (17:30～)

クラーク・チャペル
アドベント讃美礼拝12月4日、11日
クリスマス礼拝12月18日

●今出川水曜チャペル・アワー (10:45～)

クラーク・チャペル
アドベント讃美礼拝12月5日、12日
クリスマス礼拝12月19日

●京田辺水曜チャペル・アワー (10:45～)

キリスト教文化センター集会所
アドベント讃美礼拝12月5日、12日
クリスマス礼拝12月19日

●京田辺金曜ランチタイム・チャペル・アワー (12:40～)

キリスト教文化センター講座室
アドベント讃美礼拝11月30日、12月7日、14日
クリスマス礼拝12月21日

【お問い合わせ先】

今出川校地キリスト教文化センター TEL:075-251-3320
京田辺校地キリスト教文化センター TEL:0774-65-7370

同志社 クリスマスキャンドルライトサービス

キャンドルの光のもと、皆さんで一つになって、イエス・キリストの誕生をお祝いしましょう。

【日時】12月22日(土) 開場17:30 / 開式18:00 入場無料

【会場】今出川校地 同志社栄光館ファウラーチャペル
(女子大学・女子中高構内)

【主催】同志社クリスマスキャンドルライトサービス実行委員会

【後援】同志社中高・女子中高・国際中高・香里中高宗教部

同志社大学キリスト教文化センター・同志社女子大学宗教部

【お問い合わせ先】同志社女子大学宗教部 TEL:075-251-4141

2013年度同志社ローム記念館プロジェクト募集

同志社ローム記念館では、IT、メディアテクノロジーを創造的に活用し21世紀の文化創造を担う人材の育成を目指し、プロジェクト活動を展開しています。

現在、2013年度に実施するプロジェクトを募集しています。採択されると、プロジェクトルームが利用できる、必要経費が付与されるなど、1年間の活動に対するサポートがあり、プロジェクトによる学びの環境を得ることができます。あなたが興味を持っているアイデアやテーマについて、仲間と一緒に取り組んでみませんか? 刺激的な1年を過ごしましょう!

詳しい募集要領やプロジェクトに関する情報は、ローム記念館Webサイト(<http://rohm.drm.doshisha.ac.jp/>)をご覧ください。

【2013年度プロジェクト活動期間】

2013年4月8日(月)～2014年3月14日(金)(予定)

【エントリー締切】2013年1月18日(金)17:00

【お問い合わせ先】ローム記念館事務局(京田辺校地総務課)

TEL:0774-65-7800

E-mail:jt-rohm@mail.doshisha.ac.jp

2013年度ホストファミリー募集

国際センター留学生課では、夏休みを利用した短期プログラムで来日する留学生のホストファミリーを募集しています。海外からの留学生をサポートし、家族の一員として受け入れていただける方で興味をお持ちの方はお問い合わせください。

【受入学生】2013年度夏に京田辺キャンパスで実施するホームステイプログラムに参加する米国・メリーランド大学の留学生

【受入期間】2013年6月5日(水)～12日(水)の8日間(予定)

【条件・環境】・京田辺キャンパスまでの通学が片道1時間以内 ・4畳半以上の個室1部屋の提供(和室・洋室は不問) ・寝具、勉強机、冷房の提供
・インターネットが利用できること ・朝・夕2食の提供 ・全期間を通して受入可能な方

【謝礼】8日間で1万5千円

【その他】1ホストファミリー1学生のための受け入れをお願いします。

【お問い合わせ先】国際センター留学生課 TEL:0774-65-7453

E-mail:jt-ois@mail.doshisha.ac.jp

※詳細な資料をお送りいたします。

今出川校地 キャンパスツアーガイド募集

キャンパスツアーは、研修を受けた在学生在が受験生や一般の方とともにキャンパスを巡りながら、同志社の魅力を伝える仕事です。今出川校地内の重要文化財建築物や、同志社の建学の精神を紹介する中で、在学生の皆さんにとっても母校同志社の新たな発見につながるはず。今出川・京田辺の学生を問わず、積極的にご参加ください。

【時給】880円

【お問い合わせ先】同志社エンタープライズ TEL:075-251-3043

Hardience(ハーディー友の会)メンバー募集中!

同志社大学今出川校地学生支援課では、より多くの方に、寒梅館のイベントをきっかけとして本学および本学学生の活動に関心を持っていただくために、私たちとともに催しを盛り上げていただける方を募集しております。お申し込みは、今出川校地学生支援課窓口にて、随時受付中です。

【対象】一般・他学生(本学学生・教職員は対象外とさせていただきます)

【会費】無料

【特典】寒梅館イベント情報の郵送(希望者のみ)、案内メール配信、映画招待券やコンサート入場券のプレゼント(抽選)・入場料割引、学生団体による公演・お芝居等へのご招待、寒梅館レストランでの割引 etc.

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

A N N O U N C

ビジネスプランコンテスト開催

「同志社大学 New Island Business Plan Contest」は、今年で9回目を迎えるビジネスプランコンテストです。予選を勝ち抜いたチームが個性豊かなビジネスプランを発表しますので、ぜひ聞きに来てください。

【日時】1月12日(土)13:00～

【場所】寒梅館ハーディーホール

【主催】同志社ベンチャートレイン、リエゾンオフィス

【お問い合わせ先】

同志社ベンチャートレイン E-mail:doshisha.venture.train@gmail.com

リエゾンオフィス E-mail:jt-liais@mail.doshisha.ac.jp



WOT(ワット)="What's On Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

●12月6日(木) 映画上映『わが母の記』(2012年/日本/118分)

【監督:原田真人 出演:役所広司、樹木希林、宮崎あおい】
10:30 / 13:30 / 16:00 / 18:30 一般有料

●12月13日(木) サリナ・ジョーンズ ウィズ フレンズ クリスマスナイト2012

【お問い合わせ先】エースプロモート TEL:06-6341-1171

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※本年度の催しはこれにて終了となります。



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】入場無料

●12月4日(火) 映画上映*詳細未定

●12月11日(火) 映画上映*詳細未定

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

※本年度の催しはこれにて終了となります。

第48回全同志社メサイア演奏会

キリストの降誕・受難・復活を讃えるヘンデル作曲の大曲「メサイア」は、キリスト教精神を徳育の基本に据えた本学の学風の中で長年にわたり、学生、教職員、卒業生、また地域の人々に愛されてきました。ご来場の皆さまには素晴らしいクリスマスイブをお過ごしいただけますよう、一同心を込めて演奏いたします。是非お誘い合わせの上でご来場ください。

指揮:飯守 泰次郎

合唱:同志社メサイアコア、同志社大学女声合唱団フルール、

メサイアシンガーズ、同志社グリークラブ

オーケストラ:同志社交響楽団

【日時】12月24日(月・振) 開場17:00 / 開演18:00

※B席のみ当日16:30より座席券交換

【会場】京都コンサートホール大ホール

(京都市営地下鉄丸丸線 北山駅下車 1番出口より南へ徒歩3分)

【料金】S席[事前座席指定]2,000円 / A席[事前座席指定]1,500円 / B席[当日座席指定]1,000円(※当日券の販売はございません。)

【販売】チケットぴあ TEL:0570-02-9999

http://t.pia.co.jp (Pコード:180-220)

京都コンサートホールプレイガイド TEL:075-711-3090
同志社大学生協京田辺旅行カウンター TEL:0774-65-8376
同志社大学生協今出川プレイガイド TEL:075-251-4433
全同志社メサイア演奏会HP販売 http://alldoshishamessiah.net/

【主催】全同志社メサイア演奏会実行委員会

【後援】学校法人同志社

【お問い合わせ先】全同志社メサイア演奏会実行委員会

TEL:080-3864-2412 (田嶋)

E-mail:doshisha.messiahconcert2012@softbank.ne.jp



FLAT bふらっとプログラム

【会場】京田辺校地ハローホール 【料金】無料

●12月5日(水) ジャグリングマジック みっきゅん 12:30～

●12月19日(水) 映画上映『メン・イン・ブラック3』
(2012年/日本語字幕版/105分)
12:30～/14:45～

【お問い合わせ先】京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7413

♪観に行こう聴きに行こう♪

—学生団体12月～3月の活動予定—

【寒梅館ハーディーホール】

●12月8日(土) 同志社コール・フレューゲル 第46回定期演奏会

18:00 (17:30～)500円

●12月25日(火) ピアノ研究会 第14回定期演奏会

15:00 (14:30～)無料

【明德館前】

●12月5日(水) 学生保健部会 献血 10:00～17:00

【京田辺 ラーネッド記念図書館裏】

●12月6日(木) 学生保健部会 献血 10:00～

【京田辺校地ハローホール】

●12月17日(月) ピアノ研究会 多目的ホール定期演奏会

12:30 (12:15～)無料

【学外】

●12月9日(日) 学生混声合唱団C.C.D. 第60回記念定期演奏会

高槻現代劇場大ホール 15:00 (14:30～)800円

●12月15日(土) 応援団吹奏楽部 第43回定期演奏会

八幡市文化センター 18:00 (17:30～)無料

●12月16日(日) KOREA文化研究会

日本と朝鮮半島の(次代)を創る学生フォーラム2012

会場未定 14:00～17:00 (13:30～)500円

●12月22日(土)・23日(日・祝) 書道部 連盟展

建仁寺 西来院 禅居庵 22日 10:00～17:00 無料

23日 10:00～16:00 無料

●12月23日(日・祝) 同志社混声合唱団こまくさ 第43回定期演奏会

京都外国語大学森田記念講堂 17:00 (16:30～)1,000円

応援に行こう!～体育会試合日程

開催日時等は変更されることがあります。

【レスリング部】

2012年度西日本学生秋季リーグ戦

●12月8日(土)・9日(日)(計量は7日) 9:30～

対戦大学:立命館、福岡、桃山学院、(+順位決定戦の大学)の四校

会場:大阪府堺市金岡公園体育館

世界大学射撃選手権に出場した 関西の大学射撃界第一人者

心理学を活かし、目指すはリオデジヤネイロ五輪のメダル

射撃競技を始めたのは高校に入学してからです。進学した高校に射撃部があり、部活見学でチームライフルを撃たせてもらった時に面白いと思ったのがきっかけです。射撃は点数で勝負する競技なので、最初はスコアが上がっていくのが楽しかったですね。

次第にインターハイ優勝という明確な目標ができ、試合で勝ち進むにつれてどんどんやる気が出てきました。結局最後のインターハイでエアライフル競技の個人8位入賞、団体では5位という結果を収めることができました。その成績が評価されて東京の大学などから声をかけていただいたのですが、選んだのは同志社大学。決め手は、その年に心理学部が文学部から独立して開設されたことでした。射撃はメンタル競技のため、心理学が役立つ部分があります。大学ではオリンピックに出場してメダルを取るという目標を掲げていたので、レベルアップのためにも心理学を学び、メンタル面の強化を目指そうと考えたのです。実際に、試合の時の気持ちの切り替え方などスポーツ

心理学を活かしている実感を感じることが多いです。その証拠に、大学に入学してから点数が10点ほど伸びました。射撃では1、2点の差で大きく順位が変わるので、10点というのは大きな飛躍です。1年次の終わりに出場した全日本選抜大会では、一般のオリ

ンピック代表選手に次いで2位に入ることができました。

しかしその後、長いスランプに陥りました。それまでは10メートルの距離からの撃つエアライフル種目だけに出場していたのですが、オリンピック出場には伏撃、立射、膝射の三姿勢で50メートル離れた的的中点を競うスモールポアライフル(SB)という種目でも高得点を取らなければなりません。SBの練習を始めたことでエアライフルに集中できなくなり、心理的に混乱してしまいました。試合でも自分の射撃ができずに終わることが多く、「自分にとって射撃とは何なのか」と考える悩む日々が1年間続きました。脱け出せたのは、自分の殻に閉じこもるのをやめ、オリンピック代表選手や他大学の選手たちの話を聞くように心がけたことがきっかけでした。それまでの「感覚の射撃」から、他の選手の良い面を取り入れて自分の引き出しを多くし「理論的に考える射撃」に変えていきました。また初心に戻って、集中力の高め方など多分野の本を読み、自分の幅を広げる努力もしました。その結果、昨年の秋の関西学生選手権で自己新記録を出して個人優勝。それからは成績も安定するようになり、この9月、ロシアで行われた世界大学射撃選手権への出場につながりました。

今年のロンドンオリンピックはちょうどスランプの時期に重なったため、出場は叶いませんでした。次の目標は当然4年後のリオデジヤネイロオリンピック。メダル獲得を目指します。

ツ心理学を活かしている実感を感じることが多いです。その証拠に、大学に入学してから点数が10点ほど伸びました。射撃では1、2点の差で大きく順位が変わるので、10点というのは大きな飛躍です。1年次の終わりに出場した全日本選抜大会では、一般のオリ



岩崎 貴文さん
[心理学部4年次生]

